

「Xゲームズ」日本で初開催

五輪金メダルの堀米選手、四十住選手が優勝



スケートボード女子パーク決勝で演技する四十住選手



スケートボード男子ストリート決勝で演技する堀米選手

アキシオンスポーツの国際大会「Xゲームズ」千葉大会が4月22日から24日まで千葉市で開催された。日本でこの大会が行われるのは初めて。100人を超えるトップ選手が国内や外国から参加し、スケートボード、自転車、モトクロス（オートバイ）の3競技で熱戦をくり広げた。スケートボードは昨年の東京五輪で堀米雄斗選手、四十住さくら選手が金メダルを獲得するなど、この大会でも日本勢が活躍した。

男子ストリートで、堀米選手が通算2度目の優勝を果たし、15歳の池田大暉選手が2位、白井空良選手が3位となり、日本勢が表彰台を独占。堀米選手は「日本と世界でスケートのレベルが上がっている。2年後のパリ五輪に向けて頑張りたい」と五輪連覇を目標に掲げた。

女子パークでも、四十住選手が初優勝し、東京五輪銀メダルの開心那選手が2位、手塚まみ選手が3位となり、日本勢が上位を占めた。四十住選手は「Xゲームズだけ金メダルがなかったのうれしい」とガッツポーズして喜びを表した。

女子ストリートは東京五輪銅メダルの中山楓奈選手が2位だった。

日本は強豪ドイツ、スペインと同じ組

11月開幕のサッカーW杯

11月21日に開幕するサッカーのワールドカップ（W杯）カタール大会の1次リーグの組み合わせ抽選会が4月1日に行われ、7大会連続7度目の出場を3月に決めた日本はスペイン、ドイツと同じE組に入った。残る1チームは、6月の大陸間プレーオフで対戦するコスタリカとニュージーランドの勝者。

スペインもドイツも過去の大会で優勝している強豪だが、日本代表の森保一監督が目指すベスト8に進出するためには、どちらかに勝っておきたい。

日本の初戦は11月23日のドイツ戦。勝つか負けるか引き分けるか。この試合の戦いぶりがカギとなりそうだ。森保監督は「スペインもドイツも優勝したことがあり、世界のトップを走るチーム。対戦が楽しみだが、相手を上に見るのではなく、日本のストロングポイントを出して戦えるようにしたい」と話した。

大会は出場32チームがA～Hの8組に分かれ、1次リーグで各組4チームが総当たり。各組の上位2チームが決勝トーナメントに進出する。決勝は12月18日。



サッカーW杯カタール大会の組み合わせ抽選会の様子

佐々木朗希投手が20歳6カ月で完全試合

史上最年少、13連続奪三振の新記録も

プロ野球ロッテの佐々木朗希投手が4月10日、千葉市で行われたオリックス戦の一回から九回まで走者を1人も出さない完全試合を達成した。史上16人目（16度目）で、20歳6カ月は史上最年少での快挙となった。

佐々木投手は、一回2アウトから五回終了まで13人に対し連続で三振を奪う新記録も樹立。連続奪三振のこれまでの記録は9連続だった。1試合19奪三振のタイ記録もマークした。完全試合は1994年の槇原寛己さん（巨人）以来28年ぶり、パ・リーグでは78年の今井雄太郎さん（阪急・現オリックス）以来44年ぶり。

プロ野球選手になって3年目の佐々木投手は、岩手県の大船渡高校時代に時速163キロの速球を投げるなど注目された。ロッテ入団1年目は体力づくりに専念し、2年目の昨年は3勝をあげた。



九回、最後の打者を打ち取り完全試合を達成した佐々木投手



完全試合を達成し、ウィニングボールを手に喜ぶ佐々木投手

佐々木投手は「この1試合で終わらず、良い投球を何年も続けられる投手になりたい」と大記録達成にも冷静に話した。

佐々木投手は17日の日本ハム戦でも八回まで1人の走者も出さなかったが、この回限りでマウンドを降り、2試合連続の完全試合はならなかった。24日のオリックス戦の一回には先頭打者に安打を許し、無安打、無走者の連続記録はストップした。

男子は橋本選手、女子は笠原選手が優勝

体操全日本個人総合選手権

体操の全日本個人総合選手権大会は4月21日から24日まで東京体育館で行われ、男子は17歳で高校3年の笠原有彩選手が予選3位から逆転で初優勝した。高校生の優勝は9年ぶり。男子は、昨年の東京五輪で個人総合と鉄棒で金メダルを獲得した橋本大輝選手が、実力を発揮して2連覇を果たした。

長年にわたって女子の体操を引っ張ってきた村上茉愛さん、寺本明日香さんが現役を引退して世代交代を迎えた中、笠原選手は安定した演技で着実に得点を積み上げた。笠原



男子決勝でつり輪の演技をする橋本選手[代表撮影]



女子決勝で平均台の演技をする笠原選手[代表撮影]

選手は「まさか自分が優勝できるとは、すごくびっくり。練習を重ね、村上さんと同じレベルか、それ以上で戦えるようになりたい」と話した。

橋本選手は五輪の後に行われた世界選手権で着地に失敗して優勝できなかった反省から、股関節を強化して着地を安定させた。「1位で終わってほっとしている。（着地は）半年前からずっと練習してきた。もっといい着地ができるように修正したい」とさらなる飛躍を誓った。